
LIFE LIGHT LOVE

2025年度 宗教活動報告書

Christian Activities of TOHOKU GAKUIN

第7号



あなたの言葉は私の足の灯 私の道の光。

詩編 119編 105節

学 校 法 人 東 北 学 院
東 北 学 院 大 学
東 北 学 院 中 学 校 ・ 高 等 学 校
東 北 学 院 榴 ヶ 岡 高 等 学 校
東 北 学 院 幼 稚 園

東北学院宗教センター

宗教センターの6年

東北学院院長・学長（宗教センター長）

大西 晴樹



法人が宗教センターを立ち上げて6年が経過した。私が学長として東北学院に着任して7年、院長に就任して6年であるので、私の院長としての6年は、宗教センター長としての6年でもある。

宗教センターが立ち上がる前の東北学院は、大学、中高、榴ヶ岡高校、幼稚園それぞれの設置校において、礼拝はしっかり守られてはいるものの、学院全体のキリスト教教育、あるいは設置校同士のつながりという点では、まとまりに欠けるという印象であった。

それは、東北学院という長老改革教会の歴史的伝統に由来するキリスト教学校の固有の課題でもあった。周知のように、長老改革教会は、ボトムアップ型の教会形成を尊重してきたために、各個教会の長老の権限を重視してきた。これは、監督のもとに教会形成をしてきたカトリック、聖公会、メソジスト教会のトップダウン型の歴史的伝統に由来するキリスト教学校と著しく異なる点である。長老改革教会の伝統に由来する学校において、キリスト教教育の統括者である院長は、いわば長老ともいうべき設置校の学長・校長の意向を尊重するが、他方、監督制の伝統に由来する学校では、院長が各校の宗教主任を直接統率してキリスト教教育を遂行する形をとっているからである。

私は、東北学院と同じ、長老改革教会の歴史的伝統に由来する明治学院の学院長を2年間務めた経験があり、特に東北学院の場合、中高、榴ヶ岡高校において非キリスト者の校長が就任する局面の中で院長に就任したことになる。東北学院がキリスト教教育を院長に委ねておくだけでいいのかという課題に対するチャレンジが、私の前任院長の松本宣郎先生や当時の大学宗教部長の野村信先生が構想し、設立した宗教センターなのである。

宗教センターの立ち上げは、コロナ禍の3年と重なり苦勞したが、それでも、大学教員退職後にチャプレンを務めてくれた野村先生、理事長特別補佐（宗教センター担当）を務めてくれ、2024年に召天した鐸木道剛先生、本年度をもって退任する大久保知美さんが、学期ごとに祈禱会で設置各校を訪問し、写真を豊富に用いた「いのち ひかり あい」という機関紙、東北学院礼拝説教集、この宗教活動報告書を創刊、水曜公開礼拝を開催し、宗教センターの礎を築いてくださった。また大学宗教部長を兼務している原田浩司宗教センター主任の働き、1年目は主事として、その後2年間はチャプレンを務め、本年度をもって退職する佐藤由子牧師の働きは、これまでの宗教センターの諸活動に加え、各校の宗教主任同士やチャプレンとの交流、学生・生徒によるキリスト教活動であるTGCF（東北学院クリスチャンフェローシップ）の輪を広げている。

創立140周年を迎える東北学院は、本院の真の設立者イエス・キリストの豊かな恩恵と導きの下に、学院全体のキリスト教教育、あるいは設置校同士のつながりを明らかに強化しつつある。

目次

巻頭言

宗教センターの6年

東北学院院長・学長（宗教センター長）大西 晴樹…………… 1

2025年度 宗教活動報告

- 1) 法人事務局
 - ・活動報告…………… 3
- 2) 宗教センター
 - ・活動報告…………… 7
 - 東北学院宗教センター 主事 阿部 頌栄
 - ・東北学院中学校・高校、榴ヶ岡高校 TGCF English Café …………… 14
- 3) 大学
 - ・活動報告…………… 15
 - 東北学院大学 宗教部長 原田 浩司
 - ・第69回教職員修養会報告…………… 21
 - 講師講演〈第1部〉『平和と人権「理念を掲げ続ける教育」国際基督教大学の実践例』
東京女子大学 学長 森本あんり…………… 23
 - 講師講演〈第2部〉『挑戦する知性「世間に屈しない人格を養う教育」
東京女子大学の実践例』
東京女子大学 学長 森本あんり…………… 24
 - 閉会礼拝「ひかりと愛といのちの学校」
東北学院大学 宗教部長 原田 浩司…………… 26
 - ・2025年度 宗教協議会開会礼拝説教「神の恵みによる知恵」
東北学院大学 宗教部長 原田 浩司…………… 29
 - ・2025年度 東北学院大学卒業礼拝説教「LIFE LIGHT LOVE」
東北学院大学 宗教部長 原田 浩司…………… 31
- 4) 中学校・高等学校
 - ・活動報告…………… 33
 - 東北学院中学校・高等学校 宗教主任 松井 浩樹
 - ・2025年度 早天祈祷会 …………… 37
- 5) 榴ヶ岡高等学校
 - ・活動報告…………… 39
 - 東北学院榴ヶ岡高等学校 宗教主任 西間木 順
 - ・東北学院榴ヶ岡高等学校 教職員キリスト教教育研修会…………… 43
- 6) 幼稚園
 - ・活動報告…………… 45
 - 東北学院幼稚園 園長 島内久美子
 - ・日常における宗教活動…………… 49

2025年度

法人事務局 宗教活動報告

2025年度 法人事務局 宗教活動報告

1. 創立139周年記念式

(1) 創立記念式

日 時 2025年5月15日（木）9時30分
場 所 ラーハウザー記念東北学院礼拝堂
司 会 齋藤信二法人事務局長
参加者 287名

(2) 校祖墓前礼拝

日 時 2025年5月15日（木）11時00分
場 所 北山キリスト教墓地
参加者 45名

2. 第24回東北学院ホームカミングデー記念礼拝

日 時 2025年10月25日（土）10時00分～10時30分
場 所 ラーハウザー記念東北学院礼拝堂
司 式 原田浩司宗教部長
参加者 121名

3. 第76回公開東北学院クリスマス

日 時 2025年12月12日（金）18時30分
場 所 ラーハウザー記念東北学院礼拝堂
司 式 原田浩司宗教部長
説教者 日本基督教団 本郷中央教会 米山結実副牧師
説教題 『いちばんはじめのクリスマス』
参加者 270名

4. 東北学院職員クリスマス

(1) 礼 拝

日 時 2025年12月24日（水）17時00分
場 所 ラーハウザー記念東北学院礼拝堂
司式説教 原田浩司宗教部長
説教題 『一本の木による救済の秘義』
参加者 205名

5. 学校法人東北学院宗教協議会

(1) 第84回

日 時 2025年10月1日(水) 14時30分

場 所 土樋キャンパス5号館第1・第2会議室

(2) 第85回

日 時 2026年3月12日(木) 14時30分

場 所 土樋キャンパス8号館第3・第4会議室

6. 建学の精神の自分ごと化プロジェクト

日 時 2025年5月30日(金)～2026年3月12日(木)

場 所 ホーイ記念館H310教室

講 師 藤野雄大准教授

参加者 27名(各課・事務室より1名選出)

◎キリスト教学校教育同盟関係

1. 東北・北海道地区協議会総会

日 時 2025年5月16日(金) 14時30分～16時00分

場 所 オンライン開催

参加者 大西晴樹院長・学長(代表理事)、原田浩司宗教部長、大澤史伸地域総合学部准教授、帆足直治中学校・高等学校校長、西間木順榴ヶ岡高等学校宗教主任、松田千津子庶務課係長(事務局)、渡邊和樹庶務課員(事務局)、工藤彩絵子総務課係長(陪席)

2. 第113回定時総会

日 時 2025年6月13日(金) 14時00分～14日(土) 16時30分

場 所 北海道札幌市(北星学園)オンライン併用開催

参加者 対面参加: 大西晴樹院長・学長、西間木順榴ヶ岡高等学校宗教主任
オンライン参加: 原田浩司宗教部長、松井浩樹中学校・高等学校宗教主任

3. 第69回事務職員夏期学校

日 時 2025年7月26日(土) 15時00分～28日(月) 12時30分

場 所 山梨県北杜市高根町清里(清泉寮)

参加者 阿部萌教務課員、松村七海研究支援課員(実行委員)

※新採用職員研修として位置づけ

4. 第10回全国災害支援連絡会議

日 時 2025年8月7日(木) 14時00分～8日(金) 19時00分
場 所 石川県金沢市、羽咋市、七尾市、珠洲市、輪島市
(北陸学院、千里浜・羽咋教会、被災地視察)
参加者 西間木順榴ヶ岡高等学校宗教主任(実行委員)

5. 第69回全国大学部会研究集会(東北・北海道地区教育研究集会大学部会合同開催)

日 時 2025年8月21日(木) 9時00分～16時30分
場 所 北海道札幌市(ホテルエミシア札幌)
当番校 酪農学園大学
参加者 大西晴樹院長・学長(代表理事)、宮川基法学部長、原田浩司宗教部長

6. 第15回中堅事務職員リトリート

日 時 2025年8月21日(木) 13時00分～22日(金) 15時00分
場 所 京都府京都市(同志社大学今出川キャンパス)
参加者 小田島留歩人事課係長、菅原真希就職キャリア支援課課長補佐(実行委員)

7. 第5回キリスト教活動担当事務職員研修会

日 時 2025年8月28日(木) 13時00分～29日(金) 12時00分
場 所 宮城県仙台市(東北学院大学)
参加者 多田夏海総務課員(実行委員)

8. 第12回大学新任教員研修会

日 時 2025年8月29日(金) 13時00分～16時00分
場 所 オンライン開催
参加者 池田丈佑法学部教授、梶谷康久法学部准教授

9. 東北・北海道地区教育研究集会新任教師研修会

日 時 2025年9月1日(月) 8時30分～15時30分
場 所 宮城県仙台市(東北学院中学校・高等学校)
当番校 東北学院中学校・高等学校
参加者 成智圭中学校・高等学校教諭、高橋凌太郎榴ヶ岡高等学校教諭、西間木順榴ヶ岡高等学校宗教主任(同盟教研全国委員)

10. 第11回全国事務局長・事務長会議

日 時 2025年9月5日（金）13時00分～6日（土）12時00分
場 所 福岡県福岡市（福岡女学院大学 日佐キャンパス）
参加者 伊藤寿隆法人事務局長

11. 本部・地区事務局会議

日 時 2025年10月15日（水）15時00分～16時30分
2026年2月25日（水）15時00分～16時30分
場 所 オンライン開催
参加者 松田千津子庶務課係長、渡邊和樹庶務課係長

12. 東北・北海道地区教育研究集集中高部会

日 時 2025年10月16日（木）～17日（金）
場 所 宮城県仙台市（仙台ガーデンパレス、宮城学院中学校高等学校）
当番校 宮城学院中学校高等学校
参加者 大西晴樹院長・学長、松井浩樹中学校・高等学校宗教主任、武田誠中学校・高等学校教諭、西間木順榴ヶ岡高等学校宗教主任、引地颯太榴ヶ岡高等学校教諭

13. 第67回学校代表者協議会

日 時 2025年11月7日（金）～8日（土）
場 所 東京都渋谷区（青山学院）
参加者 大西晴樹院長・学長

14. 東北・北海道地区協議会常置委員会

日 時 2026年3月19日（木）14時30分～15時30分
場 所 オンライン開催予定
参加者 原田善教理事長、大西晴樹院長・学長（代表理事）、原田浩司宗教部長、
（予定）大澤史伸地域総合学部准教授、西間木順榴ヶ岡高等学校宗教主任、松田千津子庶務課係長（事務局）、渡邊和樹庶務課係長（事務局）

2025年度

東北学院宗教センター 宗教活動報告

2025年度 東北学院宗教センター 宗教活動報告

東北学院宗教センター 主事 阿部 頌栄

2025年度も、宗教センターの活動を無事に行うことができました。皆さまのお支えに心から感謝いたします。以下、宗教センターの宗教活動報告を振り返って、2点に分けて報告いたします。

・昨年度からの継続的な活動について

2025年度も、昨年まで展開された宗教センターの活動を継続いたしました。

「いのち ひかり あい」(広報誌)「キリスト教活動ガイドブック」「説教集」などの各種刊行物を発行いたしました。広報課の皆さまにもご協力をいただきまして、ホームページ他も広報に活用いたしました。

TGCF(東北学院クリスチャン・フェローシップ)の活動を展開しました。大学では「73Talk」「English Café」「Music Service」を中心に定期的な活動を行いました。仙台圏で活動されている宣教師の皆さまのご協力に心から感謝いたします。特に English Café では特別企画として、大学に研究のためにお越しくださっていた、ペトラ・フォン・ゲミュンゲン先生の講演会を6月に持つこともできました。他にも、適宜ゲストが来られました。シンガポール、香港、オーストラリア、イギリスなど、世界各国からです。国際的、かつキリスト教精神に基づいた交流の場となることができました。

水曜公開礼拝が年間を通じて開催しました。教職員聖歌隊の活動が9月まで展開されました。教職員聖歌隊については、2026年度以降の活動については現在未定です。

設置校に置きましては、定期的に礼拝、各行事に出席をさせていただきました。また各校での祈禱会を持つことができました。設置校のために祈ることができますことを感謝いたします。幼稚園にて「わくわく English」の活動を月1回行うことができました。

・2025年度の特筆すべき活動、新しく始められた活動について

宗教センターは、学校法人東北学院に属する組織として、各設置校での宗教活動を盛んにし、交流に資するものとなることを目指して運営されています。2025年度はそういった多角的かつ交流のための働きを展開することができました。

榴ヶ岡高校、ならびに中学・高校で「English Café」を開催することができました。幼稚園での「わくわく English」と併せて、2026年度も、各校のご事情に合わせつつ、学生の皆様に良い学びの機会、あるいは「3L精神」を実感していただけるような機会を創出していくことを目指してまいります。特に中学・高校、榴ヶ岡高校の学生の皆様に、幼稚園、大学までを含めた東北学院の一貫した校風や、大学生生活の雰囲気や、大学までを含めた東北学院の一貫した校風や、大学生生活の雰囲気をいくらかでも感じていただけるような催事とすることができました。ご協力くださいました、各設置校の先生方、職員の皆さま、そして宣教師の皆様に心から感謝いたします。

今後とも、皆さまのご指導を仰ぎつつ、学生の皆様に「3L精神」を基軸として、東北学院に受け継がれてきた恵みを示し分かち合うことを目指してまいります。



第81回水曜公開礼拝【第1部 礼拝】
2025年4月16日(水)
説教：佐藤由子(宗教センターチャプレン)



第88回水曜公開礼拝【第2部 音楽による賛美】
オルガンとコントラバスによる演奏
オルガン演奏：渡辺真理(礼拝オルガニスト)
コントラバス演奏：田島 卓(本学文学部准教授)



教職員聖歌隊練習
2025年7月16日(水)



宗教センター祈禱会(幼稚園)
2026年1月14日(水)



TGCF クリスマス感謝会
2025年12月18日(木)



TGCF Music Service
2025年11月10日(木)



TGCF73Talk
2025年5月22日(木)



TGCF English Café
2025年7月15日(木)

1. 宗教センター構成員

センター長	大西晴樹（院長・学長）
センター主任	原田浩司（大学宗教部長）
センター所員 1	藤野雄大（大学宗教主任）
センター所員 2	川島堅二（大学宗教主任）
センター所員 3	渡邊有美（大学宗教主任）
センター所員 4	松井浩樹（中学校・高等学校宗教主任）
センター所員 5	西間木順（榴ヶ岡高等学校宗教主任）
センター所員 6	島内久美子（幼稚園長）
センター所員 7	成 智圭（中学校・高等学校聖書科教諭）
センター所員 8	未 定（専任職員であるキリスト者）
センター所員 9	齋藤吉重（事務室長・法人事務局次長・庶務部長）
センターチャプレン	佐藤由子
センター主事	阿部頌栄
センター主事	松田結愛 [2026年 1月より]
事務室課長	長山琢磨（庶務課長） [2025年 6月より]
事務室係長	松田千津子（庶務課係長） [2025年 6月より]
事務室係長	工藤彩絵子（総務課係長） [2025年 6月より]
嘱託職員	大久保知美・引地素子

2. 宗教センター実務委員会（打合せ会：祈祷と報告／予定確認）

日 時：月曜日（不定期） 19回開催

場 所：宗教センター事務室別室（7号館3階）

3. 2025年度宗教センター委員会

	日 時	場 所	項 目
第1回	2025年6月10日(火) 15:00～15:48	本館会議室 (Google Meet 併用)	「2025年度宗教センター構成員について」他
第2回	2025年11月26日(水) 15:00～16:00	本館会議室 (Google Meet 併用)	「宗教センター予算申請（案）について」他
第3回	2026年2月18日(水) 15:00～16:07	本館会議室 (Google Meet 併用)	「2025年度活動報告と2026年度のスタッフ体制と活動予定」他

4. 2025年度宗教センター祈祷会（各校訪問・懇談）

① 第1回

日 時	場 所	出席者
2025年6月23日（月）16:00～17:10	東北学院中学校・高等学校	9名
2025年7月8日（火）15:15～16:15	東北学院幼稚園	14名
2025年7月15日（火）15:00～16:00	東北学院榴ヶ岡高等学校	8名

② 第2回

日 時	場 所	出席者
2025年11月10日（月）16:00～17:00	東北学院中学校・高等学校	8名
2026年1月14日（水）15:20～16:20	東北学院幼稚園	14名
2026年2月24日（火）15:00～16:00	東北学院榴ヶ岡高等学校	8名

5. 東北学院宗教センター出版物

タイトル	内 容	発行日	部 数
宗教活動報告書 第6号	設置学校におけるキリスト教活動の全般にわたる年次報告書	6月3日	250冊
宗教センター便り 「いのち ひかり あい」 第10号（前期号）	本院全体のキリスト教活動を包括する定期刊行物（各設置校の前期活動の報告等）	9月17日	3,000部
宗教センター便り 「いのち ひかり あい」 第11号（後期号）	本院全体のキリスト教活動を包括する定期刊行物（各設置校の後期活動の報告等）	2月26日	3,000部
東北学院礼拝説教集 第6号	各学校での礼拝説教掲載	3月16日	4,500部
キリスト教教育と活動の ガイドブック	各学校のキリスト教活動案内	3月16日	5,700部

6. 水曜公開礼拝【添付資料1】

日 時：4月～2月の毎月第3水曜日 18時半～19時半

回 数：9回 [8月、12月、3月は休会]

内 容：第1部礼拝、第2部オルガン等による演奏

平均出席人数：43人

7. 教職員聖歌隊の活動 [9月以降活動休止]

開催日：毎月第4水曜日 18時15分～19時15分 対面にて実施

実施日：5月28日、6月25日、7月16日

出席平均人数：約15人

主な練習曲目：讃美歌21-108番 眠れ主にありて

第2編 -259番 主われらを祝し

水曜公開礼拝での合唱実施：7月16日（水）ラーハウザー記念東北学院礼拝堂にて

8. TGCF（東北学院キリスト教フェローシップ）の活動

	活動内容	日にち	平均出席人数	参加学生数
大学	スプリングカレッジ参加	4/11	8人	
	English Café（国際交流）	5/1、6/5、7/3、10/9、11/13	34人	
	音楽礼拝／礼拝後交流会	5/8、6/19、7/10、10/2、11/7	36人	
	第3回五橋クリスマス参加	12/4		7人
	ミーティング	4/11、5/8、6/5、6/19、7/10、9/11、10/9、12/18、1/15、1/22	8人	
	音楽礼拝練習	4/11、5/1、7/3、11/6	6人	
	73 Talk	毎週木曜昼休み	7人	
	大学礼拝賛美奉仕	5/20、6/20、7/1、11/25、12/23		4人
中高	English Café（国際交流）	12/24	30人	
榴ヶ岡	English Café（国際交流）	9/8、10/14、11/11、1/20	11人	
幼稚園	わくわく English（異文化理解）	4/18、6/27、7/11、9/5、10/10、11/17、1/30	年中	

9. 東日本大震災15年追悼祈禱会

日時：2026年3月11日（水）14時30分～15時

場所：ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

10. ホームページの更新

活動案内と出版物の掲載など適宜掲載

11. SNS での情報発信

宗教センター公式インスタグラムと X (旧 Twitter) で、主に TGCF の活動について情報を発信

12. 課外活動団体の依頼による祈祷会

アメフト部祈祷会：5月17日(土)、8月30日(土)、10月11日(土)、3月14日(土)
水泳部祈祷会：8月19日(火)

2025年度水曜公開礼拝について

1. 礼拝詳細 [4月～2月(*8、12、3月は除く)]

《礼拝開催日及び担当者一覧》

【第1部 礼拝】

回	開催日時	説教者	奏楽者	讃美歌	聖書	頌栄	参加人数
81	4月16日	佐藤 由子	椎名雄一郎	136番	ホセア書14章1-10節	545番	32人
				148番	ルカによる福音書 22章39-53節		
82	5月21日	阿部 頌栄	椎名雄一郎	讃美歌21-337番	使徒言行録 1章6-11節	讃美歌 21-26番	39人
				讃美歌21-390番			
83	6月18日	原田 浩司	菅原 淑子	72番	ヨハネによる福音書 3章16-21節	544番	44人
				352番			
84	7月16日	大西 晴樹	今高 和枝	420番	ルカによる福音書 21章5-6節	539番	65人
				234A番			
85	9月17日	藤野 雄大	小野なおみ	7番	コロサイの信徒への手紙 3章14節	543番	52人
				453番			
86	10月15日	川島 堅二	今井奈緒子	40番	ローマの信徒への手紙 10章1-4節	541番	38人
				508番			
87	11月19日	西間木 順	石田 牧子	39番	ルカによる福音書 11章27-28節	539番	41人
				讃美歌21-57番			
88	1月21日	成 智圭	渡辺 真理	354番	ルカによる福音書 19章1-10節	544番	40人
				271番			
89	2月18日	松井 浩樹	山司恵莉子	240番	ルカによる福音書 12章13-21節	541番	36人
				303番			

【第2部 音楽による賛美】

回	演奏者	
81	椎名雄一郎	オルガン独奏
82	椎名雄一郎	オルガン独奏
83	菅原 淑子	オルガン独奏・伴奏
	中川郁太郎	独唱
84	今高 和枝	オルガン独奏
	教職員聖歌隊	合唱
85	小野なおみ	オルガン独奏・伴奏
	中川郁太郎	独唱

回	演奏者	
86	今井奈緒子	オルガン独奏
87	石田 牧子	オルガン独奏
88	渡辺 真理	オルガン独奏・伴奏
	田島 卓	コントラバス
89	山司恵莉子	オルガン独奏

東北学院中学校・高校、榴ヶ岡高校 TGCF English Café

東北学院宗教センター 主事 阿部 頌栄

2025年度は、宗教センターの新しい働きとして、大学で開催していた「English Café」を各設置校でも展開いたしました。TGCF（東北学院クリスチャンフェローシップ）の名前の通り、各設置校でのキリスト教活動を活発に展開し、学生間、各設置校間での交流を盛んにするためです。2025年度にこのように実際に開催ができたことは大きなことでした。各設置校の皆さまのご協力を心から感謝いたします。

「English Café」は、宣教師の皆様のご協力の下、国際交流、英語学習の機会として開催しております。同時にその中で、宣教師の皆様がご自身のご経験やキリスト教・キリスト教文化についての紹介をさせていただきます。

榴ヶ岡高校では、2025年度の後期より、月に一度、会を持つことができました。東北学院大学進学を検討してくださっている学生の皆さまが中心となりました。英語での交流の機会となると共に、学院全体が育ててきたキリスト教主義、「3L精神」を改めて分かち合う時間となりました。

中学・高校では、昼休みの時間を利用して開催しました。クリスマス(2025年12月)とイースター(2026年3月)の2回です。いずれも宣教師の皆さま、中学・高校の先生方のお力添えで、催事に合わせた製作をしながら交流を持ちました。内部進学を検討されている学生も多く、大学との繋がりを感じられるとのご感想をいただき、好評でした。

2026年度も学院内外の皆さまのお力添えをいただきつつ、キリスト教主義を基盤とした学院全体の交流の活発化を図ってまいります。



榴ヶ岡高校 English Café
2026年1月20日(火)



中学・高校 English Café
2026年3月16日(月)

2025年度

東北学院大学 宗教活動報告

2025年度 東北学院大学 宗教活動報告

東北学院大学 宗教部長 原田 浩司

2025年度は、コロナ禍を経て、それ以前の活動規模にどの程度回復できるのかを試すような一年だったと言えよう。8月のサマー・カレッジでは、19年度に実施して以来6年ぶりに一泊二日の日程で、初めて秋保ホテルクレセントを会場に実施した。昨年度の「震災とキリスト教」のテーマを踏まえ、東日本大震災の発生から15年を迎えることを念頭に、今年度は震災直後に発足した東北学院災害ボランティア・ステーション創設の経緯や活動内容を当事者から学ぶ機会をもった。他方、猛暑化が著しい現下の夏の状況を鑑み、宗教部主催のカレッジを、次年度より「サマー」から「オータム（秋）」への移行を決断した。9月の教職員修養会は今回初めて松島のホテル大観荘を会場に行い、気分を新たに開催することができた。回帰・回復すべきものと刷新すべきもの、それぞれの課題に常々直面するが、絶えず聖書の御言葉に回帰する「福音主義のキリスト教」を建学の精神の土台とする東北学院大学の宗教部は、特に大学礼拝の出席状況に関しては回復に向かいたいものである。

以下に、大学宗教部がこの一年間に取り組んだ活動を簡潔に整理し、報告する。



第50回サマーカレッジ

2025年8月7日（木）～8日（金）

「東日本大震災と東北学院」

其田雅美氏（東北学院大学大学院課係長）

佐藤司氏（仙台市市民活動サポートセンターセンター長）



秋季特別伝道礼拝

2025年10月8日（水）

「人生は巡礼だ ～スペイン・サンティアゴ巡礼と
インマヌエルの神～」

桃井和馬氏（恵泉女学園大学 教授）



秋季特別伝道礼拝

2025年10月9日（木）

「平和七夕50年の歩み」

油谷重雄氏（平和を祈る七夕市民の会 代表）



クリスマスツリー点灯式

2025年12月4日（木）

五橋キャンパス

1. 教員組織

宗教部長	原田浩司
書記	藤野雄大
	大門耕平、岡田勇督、川島堅二、椎名雄一郎、 田島 卓、藤野雄大、渡邊有美、渡邊蘭子
キリスト教文化研究所所長	吉田 新
総合人文学科長	吉田 新
大学オルガニスト	今井奈緒子

2. 礼拝オルガニスト（五十音順、敬称略）

石田牧子、今高和枝、大泉真理、小野なおみ、菅原淑子、山司恵莉子、渡辺真理

3. 大学礼拝

(1) 出席者数（学生のみ。特別伝道礼拝等を含む）

キャンパス（回数）	土樋（150回）	五橋（150回）	合計（300回）
出席者数	11,643名	14,710名	26,353名
前年度	10,409名	13,932名	24,341名
前年比	+1,234名	+778名	+2,012名

(2) 担当者内訳

学内教職員155回、学外牧師等145回 合計300回

4. 聖書研究会

土樋キャンパス	大門耕平、椎名雄一郎、渡邊蘭子 「はじめて触れる聖書とキリスト教～芸術作品を中心に～」 岡田勇督、田島 卓 「外国語で触れる聖書とキリスト教」
五橋キャンパス	（開催なし）

5. 宗教部会

開催日：4月25日、5月30日、6月27日、7月25日、9月26日、10月23日、12月11日、
1月22日、2月17日

6. 大学宗教主任会

実施なし

7. 宗教部自己点検評価会

(1) 第1回（前期）

日 時：2025年9月24日（水）～9月25日（木）（メール審議）

(2) 第2回（後期）

日 時：2026年2月24日（火）～2月26日（木）（メール審議）

8. 第30回スプリング・カレッジ

日 時：2025年4月11日（金）10時00分～13時00分

場 所：土樋キャンパス ラーハウザー記念東北学院礼拝堂他

参加者：学生14名、教職員16名 合計30名

9. 春季宗教教育強調週間特別伝道礼拝

(1) 土樋キャンパス

日 時：2025年5月22日（木）10時05分～10時55分 出席者279名

説教者：鈴木道也氏（日本基督教団花巻教会 牧師）

(2) 五橋キャンパス

日 時：2025年5月21日（水）10時05分～10時55分 出席者507名

説教者：田所義郎氏（日本バプテスト尚綱教会牧師、学校法人尚綱学院キリスト教センター長）

10. キリスト者等推薦学生懇談会（前期）

日 時：2025年7月3日（木）12時25分～13時5分

場 所：土樋キャンパスホーイ記念館（2階）会議室

参加者：学生13名、教職員11名 合計24名

11. 宗教部研修会

日 時：2025年7月24日（木）16時00分～18時00分

場 所：土樋キャンパス8号館（3階）第3会議室

テーマ：「宗教主任ーその理想と現実」

発題者：川島堅二大学宗教主任、渡邊蘭子大学宗教主任

参加者：教職員14名

12. 第50回サマー・カレッジ

日 時：2025年8月7日（木）10時00分～8月8日（金）12時30分

場 所：秋保リゾートホテルクレセント 他

主 題：「東日本大震災と東北学院大学」

講 師：其田雅美氏（東北学院大学大学院課 係長）

佐藤 司氏（仙台市市民活動サポートセンター センター長）

参加者：学生25名（推薦学生14＋一般学生11） 教職員13名 合計38名

13. 第69回教職員修養会

日 時：2025年9月9日（火）10時00分～16時40分

場 所：ホテル松島大観荘

主 題：「聖書に聴く」

講 演：「平和と人権——理念を掲げ続ける教育」

「挑戦する知性——世間に屈しない人格を養う教育」

講 師：森本あんり氏（東京女子大学学長）

参加者：教職員約103名

14. 秋季宗教教育強調週間特別伝道礼拝

(1) 土樋キャンパス

日 時：2025年10月9日（木）10時5分～10時55分 出席者280名

説教者：油谷重雄氏（「平和を祈る七夕市民の会」代表）

(2) 五橋キャンパス

日 時：2025年10月8日（水）10時5分～10時55分 出席者189名

説教者：桃井和馬氏（恵泉女学園大学 教授）

15. キリスト者等推薦学生懇談会（後期）

日 時：2025年12月11日（木）12時25分～13時5分

場 所：土樋キャンパスホーイ記念館（2階）会議室

参加者：学生11名、教職員10名 合計21名

16. 第3回五橋クリスマス

日 時：2025年12月4日（木）18時20分～20時20分

参加者：約600名

17. 第31回キリスト者教員研修会

日 時：2026年2月10日（火）15時30分～17時00分

参加者：教職員18名

18. 礼拝司会者・オルガニスト懇談会

日 時：2026年2月17日（火）11時30分～13時30分

場 所：ホテルベルエア仙台

参加者：外部牧師・オルガニスト19名、教職員11名 合計30名

19. 学長招待卒業生懇談会

日 時：2026年2月26日（木）12時00分～13時00分

場 所：土樋キャンパス8号館第1会議室

20. 卒業記念礼拝

日 時：2026年3月23日（月）

説教題：「LIFE LIGHT LOVE」

説教者：宗教部長

21. 宗教部印刷物関係

『チャペル・ニュース152号』入学・進級号（4月）

22. 開催無し

礼拝奉仕者懇談会、青山学院大学・東北学院大学合同チャプレン代表者会

23. その他諸会議

パイプオルガン委員会、礼拝堂委員会

2025年8月21日（木）～8月25日（月）メール審議

過去の礼拝出席数

	2025			2024			2023					
キャンパス	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均
土樋	11,643	150	78	10,409	150	69	4,655	150	31			
五橋	14,710	150	98	13,932	150	93	19,821	150	132			
総計	26,353	300	88	24,341	300	81	24,476	300	82			
	2022 (コロナ禍)			2021 (コロナ禍)			2020 (コロナ禍)			2019		
キャンパス	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均
土樋	2,850	123	23	403	23	18	219	15	15	10,047	180	56
多賀城	4,160	123	34	391	23	17	102	15	7	18,993	180	106
泉	7,011	123	57	459	23	20	142	15	9	52,302	179	292
総計	14,021	369	38	1,253	69	18	463	45	10	81,342	539	151
	2018			2017			2016			2015		
キャンパス	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均
土樋朝	16,972	181	94	20,286	181	112	15,156	180	84	18,285	181	101
多賀城	24,252	181	134	24,679	180	137	17,094	180	95	34,784	181	192
泉	65,504	181	362	59,050	181	326	53,352	180	296	73,112	181	404
土樋夜	0	0	0	0	0	0	835	32	26	820	32	26
総計	106,728	543	197	104,015	542	192	86,437	572	151	127,001	575	221
	2014			2013			2012			2011		
キャンパス	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均
土樋朝	17,033	180	95	13,517	181	75	26,593	181	147	23,034	168	137
多賀城	39,514	178	222	31,548	181	174	40,629	181	224	39,463	166	238
泉	67,264	180	374	53,489	181	296	61,040	181	337	57,805	168	344
土樋夜	1,147	33	35	1,328	34	39	1,561	31	50	1,484	28	53
総計	124,958	571	219	99,882	577	173	129,823	574	226	121,786	530	230
	2010			2009			2008			2007		
キャンパス	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均
土樋朝	15,540	180	86	5,400	153	35	10,718	156	69	11,527	168	69
多賀城	24,007	182	132	39,723	160	248	35,769	162	221	42,028	177	237
泉	63,104	180	351	45,755	154	297	41,359	157	263	52,933	156	339
土樋夜	2,091	32	65	1,301	26	50	3,594	28	128	3,985	30	133
総計	104,742	574	182	92,179	493	187	91,440	503	182	110,473	531	208
	2006			2005			2004			2003		
キャンパス	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均
土樋朝	5,481	164	33	6,911	166	42	10,003	165	61	11,148	158	71
多賀城	36,153	177	204	38,495	179	215	39,093	178	220	32,776	172	191
泉	55,303	165	335	62,951	167	377	66,259	165	402	65,973	159	415
土樋夜	4,337	30	145	4,059	28	145	6,655	28	238	6,923	30	231
総計	101,274	536	189	112,416	540	208	122,010	536	228	116,820	519	225

2025年度 第69回東北学院大学教職員修養会 報告

【第69回東北学院大学教職員修養会プログラム】

日 時：2025年9月9日(火)

会 場：ホテル松島大観荘 (LF 階)『藤』他

主 題：『聖書に聴く』

講 師：森本あんり先生 (東京女子大学 学長)

8:30 五橋キャンパスから送迎バス出発

10:00 開会礼拝 説教：大西晴樹先生

奏楽：椎名雄一郎先生

10:15 学長挨拶

理事長挨拶

講師紹介

10:25 講師講演〈第1部〉『平和と人権「理念を掲げ続ける教育」国際基督教大学の実践例』

11:15 休憩

11:20 講師講演〈第2部〉『挑戦する知性「世間に屈しない人格を養う教育」東京女子大学の実践例』

12:10 事務連絡・移動

12:20 昼食・休憩

・会場：2階『天海』

13:30 分科会 (グループ懇談)『講師講演をめぐって』

・会場：FL 階『千代』『萩』(終了後、LF 階『藤』へ移動)

15:30 全体協議・報告会

16:15 閉会礼拝 説教：原田浩司先生

奏楽：椎名雄一郎先生

16:30 閉会挨拶

16:40 ホテルから送迎バス出発

講師略歴

森本 あんり（もりもと あんり）

東京女子大学 学長

1956年生まれ

学 歴

- 1979年3月 国際基督教大学 人文科学科卒業（B.A.）
- 1982年3月 東京神学大学大学院 博士課程前期課程修了（Th.M.）
- 1991年5月 プリンストン神学大学 博士課程修了（Ph.D.）

職 歴

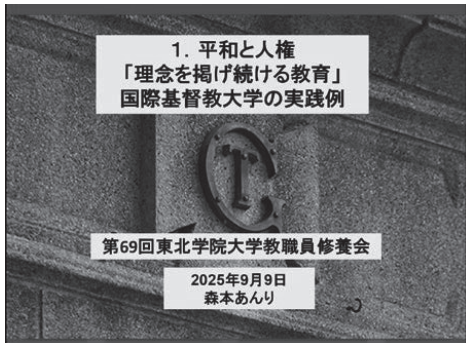
- 1991年9月 国際基督教大学 大学牧師
- 1997年4月 国際基督教大学 人文科学科 準教授
- 2001年4月 国際基督教大学 人文科学科 教授
- 2002年9月 プリンストン神学大学 客員教授（秋学期 授業担当3単位）
- 2010年1月 パークレー連合神学大学院 客員教授（春学期 授業担当2単位）
- 2012年4月 国際基督教大学 学務副学長（～2020年3月）
- 2022年4月 国際基督教大学 名誉教授

近 著

『不寛容論』（新潮社）、『異端の時代』（岩波書店）、『反知性主義』（新潮社）、『教養を深める』（PHP 新書）、『魂の教育』（岩波書店）

『平和と人権「理念を掲げ続ける教育」国際基督教大学の実践例』

東京女子大学 学長 森本 あんり



「イザヤ書」40章3-5節

呼ばれる者の声がある、「荒野に主の道を備え、さばくに、われわれの神のために、大路をまっすぐにせよ。もろもろの谷は高くせられ、もろもろの山と丘とは低くせられ、高低のある地は平らになり、険しい所は平地となる。こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る。これは主の口が語られたのである。」(口語訳)

初代学長 湯浅八郎 (1953年)

ICUは、キリスト教を人生観に掲げ、キリスト教によって価値判断を下すという意味において基督教大学なのです。あなた方はキリスト者になるよう求められることはありません。けれども、私たちは、あなたがた一人一人に、キリスト者としての生き方で挑戦してゆくつもりです。

長清子 (1963年)

私は、今日の日本の大学には『理想』が失われているように思う。『理想』などということがむしろ、何か気恥ずかしい骨董品のようなものとなっている感がなくもない。若い人たちは早くより損得の見分けに長け、自分に得にならないものには関心を持たないように自らを訓練し、社会に出て最も有効に有利な地位を獲得するために合理的な道筋を計画立てて大学を選択し入学する。そういう場合、大学は学生の立てた人生目標にむかって学生を導く上に最も合理的に奉仕するものであるか否かが必要問題なのであって、大学の理想などというものは昔の角帽の徽章ほどの意味もないということになるかもしれない。

ICUに入学した諸君にも、それぞれに打算的思惑があるかもしれない。だが、ICUに入った以上はここでちょっと立ち止まって、この大学はどういう目的と理想とに立ち、どういう人間を形成しようとする大学なのかということをお共と一緒に考えてもらいたい。国際基督教大学はその目的と理想を本当の意味で大切にしている大学であり、教授も学生も大学の現実がそれにふさわしく形成されつつあるかということに関しては、常に遠慮なくきびしい問いかけをしあう大学だからである。

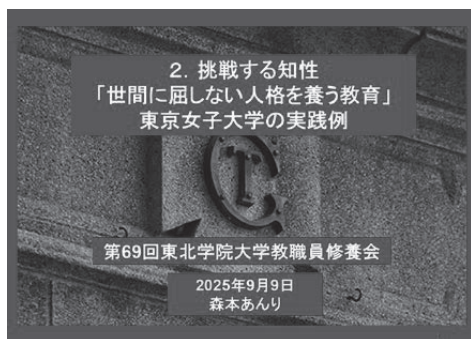
拙文『IDE 現代の高等教育』（2019年5月）

教養教育は何よりもまず学生に「夢」を語り「幻」を見させなければならない。歴史を通して人びとが求め続け、なお達成することのできない理想を、それでも追い求め続けるべき尊い価値として提示し続けねばならない。そのような理念の駆動力なしには、どれほど環境を整え質の高い教育を提供しようとも、学生たちは与えられた餌を食べて肥えるだけの従順な家畜にしかならない。手段は後で学ばばよい。失望や幻滅も後からやってくる。それでも生涯を通して学び続けることができるのは、若き日の魂に志と信念の深みを宿すことのできた者だけである。

主題講演〈第2部〉

『挑戦する知性「世間に屈しない人格を養う教育」東京女子大学の実践例』

東京女子大学 学長 森本 あんり



「ピリピ人への手紙」4章8-9節

最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。あなたがたが、わたしから学んだこと、受けたこと、聞いたこと、見たことは、これを実行しなさい。そうすれば、平和の神が、あなたがたと共にいますであろう。(口語訳)

初代学長 新渡戸稲造（1918年）

- ・良妻賢母主義は、人間を一種の型にはめ込むようなものだ
- ・男子が縦糸、女子が横糸。どちらが弱くても、織物は強くならない
- ・婦人が偉くなると国が衰えるなどというのは、意気地のない男の言うことだ

初代学監・第二代学長 安井てつ

- ・当校に Liberal College の性質をもたしむること
- ・職を得させんがために専門の教育を与えるのではなく、良き目的のために、その知識を活用しうる人、いかなる仕事をも忠実に実行する人をつくりたい
- ・“Something”（1928年伊藤千代子ら検挙、政府・軍部の圧力に一歩も引かず）

新制大学として再出発（1948年）

努めて各専門科目の孤立偏重を避け、相互の緊密な学制的及び教育的連関に注意する。

拙文『IDE 現代の高等教育』（2023年12月）

United Board for Christian Higher Education in Asia のジム・レイニー会長はメソジスト派の牧師でもあったが、彼が学長任職式などに招かれてよく語ったのは、「自分を越えて生きる」(live beyond themselves) ということであった。これは、キリスト教に限らず多くの宗教や思想が共有できる教育理念だろう。現代社会は、富と権力を追求し自分の望みを思い通りに実現して生きることを究極の理想とし、しかもそれが自分だけでなく社会全体にとって益なのだ、と教え込まれている。しかし、大学で得た知識や能力を自己尊大化 self-aggrandizement のために使う人間ばかりの社会は、はたして持続可能だろうか。大学は、学生に自己実現を奨励し追求させるばかりでなく、そういう自己の本性的な欲求を批判的に吟味し、これにみずから挑戦することを学ぶ場でもなければならない。

ケネディ大統領時代に創設された Peace Corps はその一形態である。学生の関心を狭隘な自己中心性から解放し、自分を越えた生へ、より大きな世界へ、小さな他者とともに生きることへと差し向ける。だからアイヴィーリーグと呼ばれる大学の就職先トップには、メガバンクや証券会社や有名企業と並んで、常に Habitat for Humanity や Teach for America などの NGO が含まれている。他者のために働く卒業生が多くいることが、エリート大学であることの証しなのである。そういうランキングなら、おおいに競い合う意味もあるし、公共善への貢献もできることだろう。

閉会礼拝

前 奏

讃美歌 370番

聖 書 旧約聖書 創世記 第1章 1～5節

説 教 「ひかりと愛といのちの学校」

祈 祷

頌 栄 541番

後 奏

聖書：創世記 第1章1～5節

¹初めに神は天と地を創造された。²地は混沌として、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。³神は言われた。「光あれ。」すると光があった。⁴神は光を見て良しとされた。神は光と闇を分け、⁵光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。
(聖書協会共同訳)

「ひかりと愛といのちの学校」

東北学院大学 宗教部長 原田 浩司

今年の修養会は森本あんり先生を講師に迎え、先生が今学長として責任を負われている東京女子大とその最初の学長である新渡戸稲造の言葉、また先生が長く教員をしてこられた国際基督教大学の最初の学長である湯浅八郎の言葉など、二つのキリスト教大学に共通する土台について学ぶと共に、改めてこの東北学院大学の最初の学長である押川、そしてホーイ宣教師、シュネーダー宣教師たちが後世に残した言葉を思い起こし、139年の歴史を貫く建学の精神とその土台にある聖書の言葉を再確認する修養会となりました。キリスト教学校の始まり・出発点に思いを馳せてきましたので、閉会礼拝は聖書の始まりの言葉、創世記1:1-5をお読みしました。「光あれ」。創世記は神が発せられた最初の言葉として「光」を示しています。混沌が広がり、闇が全てであった世界に「光あれ」という神の言葉が響き、すべてはこの「光」から始まりました。東北学院のスクールモットー「LIFE LIGHT LOVE」の三つの単語の中心・真ん中に位置づけられるのがその「光」です。

さて、今年2025年は日本の敗戦から80年を迎える節目として、8月は各報道メディアでは特別な番組が企画され、放送されました。今から約80年前の戦前・戦中、そして戦後をめぐる様々な証言や「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら」「火垂の墓」、「ラーゲリよ

り愛をこめて」といった映画も地上波で相次いで上映されたことは、まだ記憶に新しい事と思います。8月にキリスト教学校同盟で企画された大学の全国の研究集会でも「平和」が主題となりました。戦後80年という日本の今から80年前の近代史に思いを馳せることもさることながら、今現在進行中の、長期化するロシア・ウクライナの国際戦争、イスラエルによるパレスティナ・ガザ地区への執拗な破壊活動など、第二次世界大戦以降に世界に広がりつつあると思われた平和秩序が崩れかかっているその渦中の中をわたしたちは生きていることを思わざるを得ません。

アメリカの犯罪学者ジョージ・ケリングが提唱した「割れ窓理論」という言葉を教職員の皆さんもどこかで聞いたことがあるかもしれません。それは「建物の窓が壊れているのを放置すると、それは誰も注意を払っていないことの印になり、やがて他の窓もすぐに壊されてしまう」ことを言い表すもので、つまりは、軽微な犯罪もすぐに対処することで、次の犯罪を抑止できるとする理論のことです。世界の平和秩序が破れ、混沌を放置することで、その混沌や無秩序はすぐに世界に広がっていきます。また、日本では少子化の時代が加速度を増して進行しており、地方の私立大学は岐路に立たされています。なかなか先を見通すことのできない闇のような時代を迎えています。

私たちキリスト教学校は原点に立ち返ります。「光あれ」。それが創造者なる神が語られた言葉です。東北学院の修養会では、様々な角度から、学校の創設者たちの言葉に立ち歸ります。それは東北学院の存在意義を確認するという、それは大げさな表現ではなく、非常に大切な、キリスト教大学である東北学院の重要な課題であるからです。インターネットで国際基督教大学のホームページを開きますと「Why ICU ... ? なぜ、ICUは誕生したのか？」と大きく出てきます。それはICUの独自の問いではなく「Why TGU ? なぜ東北学院なのか」「東北学院とは何なのか？」という私たちの問いでもあり、その問いを参加者皆さんと共に講演を通して分団で意見交換を交わし合い、アクティヴ・ラーニングするのが、この修養会であると思います。「LIFE LIGHT LOVE」という東北学院のモットーの言葉についても、わたしたちは「Why LIFE LIGHT LOVE ? 」と問われ、また問い続けていかなければなりません。

修養会を締めくくる閉会礼拝の説教題を「ひかりと愛といのちの学校」としました。今回はあえて「ひかり」を最初に持ってきました。闇と混沌の中で、「光あれ」と神がもたらした最初の光。闇と混沌が広がりつつある時代の中で、神がもたらしてくださる光。その光を消すのではなく、輝かせる学校、それが東北学院の「LIGHT」です。そして、この題を付けたのはそれだけではありません。クリスチャンの作家で、今から80年前の戦時下を生きぬいた一人の作家三浦綾子さんについて、三浦綾子記念文学館は「ひかりと愛といのちの作家」と評しています。三浦文学を表すなら三つの言葉「ひかりと愛といのち」。不思議なことに、この三つの言葉は、東北学院を表す三つの言葉「LIFE LIGHT LOVE」と全く同じ言葉、単語で共鳴しているのです。

最後に三浦綾子さんの言葉を紹介します。それは「LIFE LIGHT LOVE」に共鳴する言葉で

あり、東北学院の建学の精神とキリスト教教育に深く通じ合う言葉であると思います。「わたしたち一人ひとりのいのちはかけがえのないものだ。そのかけがえのないいのちを、いかされるままに、精一杯生きていく素直さを、私は持ちたいと思っている。」「ひかりと愛といのちの学校」として、東北学院で学ぶ生徒・学生一人ひとり、働く教職員一人ひとりが、地域と共に世界と共に、人生を素直に精一杯生きる、そのようなかけがえのない「わたしたち」、そしてかけがえのない東北学院でありますように。

<祈祷>

慈しみ深き主なる神、2025年度の後期の始まりが迫るこの時期、今年も修養会を持つことができ感謝いたします。講師を務められた森本先生をどうか豊かに祝福し、東京女子大でのこれからの働きをますます支え導いて下さい。東北学院は、戦後80年、震災から15年、学校創立から139年と年輪を積み重ねていますが、わたしたちが迎える近未来はますます混沌とした不透明な時代です。主なる神の光で、東北学院の進むべき道を導いて下さい。三校祖たちの志、建学の精神、そしてLIFE LIGHT LOVEをわたしたちの教育と研究と地域貢献の原点として、力強く時代を切り開くことができますよう、ますます力をお与えください。今日参加された教職員一人ひとり、参加できなかった教職員も、あなたが豊かに祝福し、それぞれのかけがえのないいのちを精一杯生きることができるよう。感謝して、主の御名によって祈ります。アーメン

2025年度 宗教協議会開会礼拝説教「神の恵みによる知恵」

東北学院大学 宗教部長 原田 浩司

開会礼拝 コリントー 1 : 18-21

2025年度の終わりを迎えたこの時期ですから、改めてこの一年を振り返りますと、特に猛暑が続いた夏から秋にかけて、日本は戦後80周年の節目を記念する行事等が全国各地で行われました。キリスト教学校教育同盟が主催した様々な集会でも「戦争と平和の問題」や「キリスト教学校における平和教育」にフォーカスが当てられました。戦後80周年の節目に、20世紀の戦争当事国であり、世界唯一の原子力爆弾の被爆国である日本は、改めて平和について思いを馳せる機会となりました。この一年を振り返る時、それは私たちの共通の記憶であり、TGの各設置校でもおそらく「戦後80年」を記念するための取り組みが行われたものと思います。こうした取り組みは、ウクライナやガザ地区といった、今なお破壊が続く、現在進行形の世界情勢を反映したものでもあります。そうした中、2026年の新年早々、アメリカ大統領の指示によりアメリカ軍がベネズエラの首都カラカスを攻撃し、反米姿勢のマドゥロ大統領を拉致監禁する事件が起きました。そして、先月末、イスラエルとアメリカの連合軍がイランの首都テヘランを軍事攻撃し、最高指導者ハメネイ師を暗殺する事件が起きました。その関連ニュースが連日報道されています。21世紀を迎えて早四半世紀が過ぎましたが、人間は過去の愚かな歴史を今なお繰り返してしまう現実、まさしく罪に罪を上書きするような現実を私たちも、生徒も学生たちも目の当たりにしています。このような時代の中、キリスト教教育に携わる私どもは改めて、東北学院全体のスクールモットー「LIFE LIGHT LOVE」に立ち帰り、世の愚かさについて聖書から省みたいと思います。

十字架の言葉は滅びゆく者には**愚かな**ものですが、わたしたち救われる者には神の力です。それは、こう書いてあるからです。「私は**知恵**ある者の**知恵**を滅ぼし、悟りある者の悟りを退ける」。**知恵**ある者はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神は世の**知恵**を**愚かな**ものにされたではありませんか。世は神の**知恵**を示されていながら、**知恵**によって神を認めるには至らなかったのが、神は、宣教という**愚かな**手段によって信じる者を救おうと、お考えになりました。

ここに繰り返される「愚か」という言葉はこの個所だけでも実に3度用いられています。その前後も併せれば、新約聖書でも特に「愚か」が強調される箇所です。ギリシア語「モーロス (μῶρος)」が「愚かな」という意味ですが、GoogleのAIは「聖書の「愚かさ」の定義を、神の真理を無視する、準備をしない、自己中心的な態度を指す」と教えてくれます。この個所では「愚か」という言葉以上に、回数ではその倍の6回用いられる言葉があります。「知恵」です。愚かさの裏返し、愚かさの表裏一体として、知恵が示されます。知識ではなく知恵である。知恵は「恵」の漢字が使われますが、聖書における恵みは、神の恩恵、神か

ら与えられる恵み、「アメージング・グレース」を意味します。人間が自らの努力で獲得し、蓄積していく知識ではなく、神を知ることから、神から与えられるのが、聖書が示す「知恵」です。大学中央図書館の入り口に「エホバを畏れるは知恵の本なり」とありますが、東北学院の先人たちが、この言葉を大切にしてきたことが明白にうかがい知ることができます。

キリスト教学校は、この愚かな世界にあって、知恵ある人間を育てることを、その使命としています。東北学院の建学の精神に示される「個人の尊厳と人格の完成」は、この知恵によらなければなりません。人は誰も自らの力、自らの知識で「人格の完成」に至ることはできないからです。既にAIは個々人の頭脳で処理できる情報量をはるかに凌駕しており、人間の知識・情報処理はAIに勝てません。人間に必要なのは情報量としての「知識」以上に、恵みとしての「知恵」です。「神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになりました。」と締め括られますが、「神は礼拝という愚かな手段」を用いて、人間が生きるに相応しい知恵をお与え下さる。キリスト教教育は、知識の教育ではなく、知恵の教育にあります。力ある者が支配するという、古代世界に後戻りするかのような前近代的な愚かさが広がりつつある世界の中で、共に神の御心を尋ねてキリスト教教育に携わってまいりましょう。

<祈り>

世界は今、大きな局面を迎えています。日本社会も人口減少によって社会構造の大きな曲がり角に直面しています。主なる神、どうかこの社会、この世界において、確かな知恵ある人間を育み、教育する東北学院として、各校のキリスト教教育と運営の責任を担うわたしたちを助け、導いて下さい。私たちに必要な知恵をお与えください。主の御名によって祈ります。アーメン

2025年度 東北学院大学卒業礼拝説教「LIFE LIGHT LOVE」

東北学院大学 宗教部長 原田 浩司

皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日は卒業前の東北学院大学の学生としての記念すべき最後の礼拝です。東北学院大学の学びの集大成として、スクールモットーである「LIFE LIGHT LOVE」の土台となった聖書の言葉を皆さんに贈ります。

今読みました聖書は、神がどれほどまでにこの世を愛しているのかを教える言葉です。「神はそのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。御子を信じる者が、一人も滅びないで永遠のいのちを得るためである。」という、キリスト教にとっては大変広く知られている言葉です。3章16節という僅か1節の短い言葉ですが、宗教改革者M.ルターはこれを「聖書の縮図」、つまり聖書は要するに何を伝えたいのか、それがここに集約されているということです。このルターの表現になぞらえれば、「LIFE LIGHT LOVE」という東北学院のスクールモットーは「東北学院のキリスト教教育の縮図」と言えるのだと思います。

さて、皆さんが東北学院で過ごした期間は、人生という長いスパンから見れば「束の間」に過ぎないかもしれませんが。しかし、これまで過ごしてきたこの短い4年の間に、日本社会・国際社会は、実に歴史的な過渡期を迎えました。ChatGPTを初め、生成AIが劇的に進化し、IT化が進んだのがこの4年。ロシアによるウクライナ侵攻が始まり世界の平和秩序が崩壊したのもこの4年。その後イスラエルによるガザへの壊滅的な軍事攻撃が始まったのもこの4年。イスラエル・アメリカ連合軍によるイラン攻撃が始まったのもこの4年。一向に止まる気配のない物価高騰が始まり、今なお続いているのもこの4年、能登半島地震が起きたのもこの4年。戦後80年という節目を迎えたのもこの4年間での出来事。皆さんが大学生として過ごしたこの4年間だけではありません、新型コロナという新たな感染症の危機に直面したことも、先日の東日本大震災の15周年も忘れてはなりません。文字通り、予測不可能な激動する時代の曲がり角に、今皆さんは立っています。平和や安全・安心という「神話」が次々に崩壊していく様を目の当たりにしながら、この変わりゆく世界の中で、時代を超え、人種・民族・文化を超えて、変わることなく人類の指針として大切に受け継がれてきた知恵が、言葉が聖書にはあります。「LIFE LIGHT LOVE」。ここにその知恵と言葉が凝縮されています。私たちのライフ（人生・生活）はコロナや地震、戦争のように、まったく予測不可能な試練が襲い、闇が襲います。しかし、LIFEに続く言葉は「LIGHT光」です。この闇は決して暗闇のまま続かない。光が射す。最後に「LIFE LIGHT LOVE」を締めくくる「LOVE」、「神はそのひとり子をお与えになったほどに世を愛された」。東北学院の教育を通して、聖書が皆さんに語ろうとしていること、それは、神はこの世界を、そしてこの世界を生きるあなたを愛しているということです。時代の曲がり角に立たされているこの社会が直面する試練の中、神はあなたに、聖書はあなたにきっと光を与えてくれます。神はあなたを愛しているの

です。それが聖書の縮図として、聖書が卒業される皆さん一人ひとりに伝えたいメッセージです。そして東北学院の「スクールモットーの終り・締め括り」に「LOVE」があるように、東北学院の学生としての最後を締め括る「卒業」の日に、皆さんに覚えて頂きたいメッセージです。卒業される皆さんの前途を、慈しみ深い神が「命と光と愛」をもって祝福して下さいますように。

<祈祷>

恵み深き主なる神さま。ここに多くの卒業生たちが集い、厳かに卒業礼拝、卒業式を開催することができ感謝いたします。今日まで過ごしてきた日々、今日振り返る4年間、さまざまな試練がありました。世界の中で戦争が続き、人のいのちが武器による暴力によって簡単に奪われています。この世界は21世紀の今も罪を重ねていますが、聖書はそれでもこの世界を愛し、わたしたちを愛してくださっている恵みを伝えます。神様、こうして東北学院での学びを終えて、今日卒業する一人ひとりの、これからの人生の門出を、人生の前途を豊かに祝福してください。そして、「LIFE LIGHT LOVE」の基督教の基本の精神をもって、人生において降り注ぐ試練や誘惑に打ち勝つ力をお与えくださいますよう、心から願います。東北学院大学の真の創設者イエス・キリストの御名によって祈り願います。アーメン

2025年度

東北学院中学校・高等学校 宗教活動報告

2025年度 東北学院中学校・高等学校 宗教活動報告

東北学院中学校・高等学校 宗教主任 松井 浩樹

毎週火曜日、現在は3名の参加だが「早天祈祷会」を執り行っている。7時50分から8時の短時間である。時代は変わり、7時50分の開始は勤務時間外となってしまった。許可をえるえないはさておき、自主参加グループといってよいのだろうか。けれども学校、生徒、同僚のことを真剣に祈る場はキリスト教学校の根幹とも思える出来事である。



ペンテコステ礼拝
2025年6月10日(火)
多田裕志先生(日本基督教団塩釜東教会牧師)



夏の青年会修養会
2025年8月5日(火)～6日(水)



ミッションスクール7校合同クリスマス募金
2025年12月6日(土)



クリスマス礼拝
2025年12月24日(水)

1. 宗教部

部 長 松井浩樹
副部長 鈴木雅光
教 諭 菊池 秀
教 諭 成 智圭

2. 礼拝

8時30分から45分までの15分間、全校生徒で礼拝堂にて礼拝を捧げる。テキストは、ルカによる福音書の連続講解。礼拝司会・説教者は基本的に月曜日、松井浩樹宗教主任、その他はキリスト者教員、月一度のペースで宗教センターチャプレンの佐藤由子先生、同じく主事の阿部頌栄先生、聖書科非常勤講師としても勤務されている田中信矢先生（南光台キリスト教会牧師）、谷澤直大先生（東北学院大学院生）、クリスマス月間に西間木順先生（榴ヶ岡高等学校宗教主任）に担当していただいた。1月には、新年礼拝を大西晴樹院長に担当していただいた。

3. 授 業

各学年週一時間、必修科目として実施。キリスト教の基礎知識、価値観、歴史を学び、人格形成にも配慮し、展開することをねらいにしている。担当教員は以下の通りである。

学 年	担 当 者	主 な 内 容
中学1年	成 智圭	キリスト教入門
中学2年	成 智圭	新約聖書入門
中学3年	成 智圭	旧約聖書入門
高校1年	松井浩樹	旧約聖書Ⅱ・3要文
高校2年	田中信矢・谷澤直大	キリスト教の歴史Ⅰ
高校3年	松井浩樹・田中信矢	キリスト教の歴史Ⅱ

4. 早天祈祷会

毎週火曜日、朝7時50分から8時00分まで松井浩樹宗教主任、成智圭教諭のもと実施。朝の礼拝で歌う讃美歌を歌い、司会者が詩編を交読、短く奨励、参加者で祈祷・主の祈りをささげる。主に宗教部の教員が参加。平均出席3名。

5. 共に聖書を学ぶ会

年4回、保護者（卒業生も含む）有志と宗教部教員による聖書の学びの会。

第262回 5月26日（月）15：45～16：45 本校会議室1

ルカによる福音書23：1～12「沈黙のキリスト」松井浩樹宗教主任

第263回 9月1日（月）15：45 本校会議室1

ルカによる福音書第19：1～10「神の愛」成 智圭教諭

第264回 10月20日（月）15:45 本校会議室1

コヘレトの言葉3：1－9

マタイによる福音書6：25－34

「思い悩み」松井浩樹宗教主任

保護者20名参加

第265回 12月5日（金）14:00

司会 松井浩樹宗教主任

奨励 小松理之先生（日本基督教団石巻山城町教会牧師）

マタイによる福音書1：21

「罪から救うために」

保護者20名参加

6. キリスト教青年会

夏の修養会 8月5日（火）～6日（水）

鳥周の宿さかい井（石巻市鮎川浜万治下1－7）0225-45-2515<宿泊>

<研修先>

おしか御番所公園（石巻市鮎川浜黒崎1－643）

ホエールタウンおしか（石巻市鮎川浜南43－1）

牡鹿半島ビジターセンター（石巻市鮎川浜南50－1）

サンファン館（石巻市渡波字大森30番地2）

教員2名 生徒7名 参加

7. 第43回 教職員修養会

主 題：『聖書にきく』～中高生に対するカルト宗教勧誘について～

日 時：2025年8月19日（火）9：00～13：00

場 所：本校会議室1

講 師：川島堅二先生（東北学院大学文学部総合人文学科教授 大学宗教主任）

参加者：20名

8. 行事

入学式	4月8日(火) 10:00 中学校 14:00 高等学校
1学期始業式	4月9日(水)
イースター礼拝	4月28日(月) 佐藤由子先生(宗教センターチャプレン)
創立記念礼拝	5月15日(木) シュネーダー先生 説教テープ
墓前礼拝	5月15日(木) 成智圭教諭(生徒4名参加)
ペンテコステ礼拝	6月10日(火) 多田裕志先生(日本基督教団塩釜東教会 牧師)
1学期終業式	9月26日(金)
2学期始業式	10月1日(水)
宗教改革記念礼拝	10月31日(金) 田中信矢先生(南光台キリスト教会牧師)
ツリー点灯式	11月28日(金) 13:30礼拝堂にて 成智圭教諭 生徒、教職員約200名出席
クリスマス月間	12月1日(月)～12月24日(水) 松井宗教主任、名越教諭、橋本教諭、高田教諭、成教諭、竹内講師、田中先生(南光台キリスト教会牧師)、高木講師、谷澤先生(東北学院大学院生)、西間木榴ヶ岡高校宗教主任
クリスマス礼拝	12月24日(水) 川島堅二先生(大学文学部総合人文学科教授) クリスマス献金 254,256円 (仙台キリスト教育児院に127,128円、小百合園に127,128円を送金)
高校3年卒業説教	1月20日(火) 小松理之先生(日本基督教団石巻山城町教会牧師)
高等学校卒業式	3月2日(月)
東日本大震災追悼礼拝	3月10日(火) 松井浩樹宗教主任
2学期終業式	3月18日(水)
中学校卒業式	3月19日(木)
キリスト教青年会	3月26日(木) 8:30～15:00 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館

2025年度 早天祈祷会

東北学院中学校・高等学校 宗教主任 松井 浩樹

私が着任した頃（20年ほど前）は、礼拝堂の二階席が満席になるほどの生徒の参加があった。出席を2名体制でとり、盛況であった。というのも聖書科の点数に平常点として加点するというものであった。しばらくすると、部活動の朝練習の生徒が参加したくとも、それがかなわず平等性に問題があるとの指摘がなされ、ある時から盛況の早天祈祷会はなくなっていった。しかし会そのものをやめることはなく、数名の心優しい生徒が参加して細々と続けたのである。また、当時の校長であった松本芳哉先生が、忙しい時以外は参加しともに祈っていた最後の校長先生である。

その後も数名の生徒、時の聖書科非常勤講師と共に会は続いた。2000人収容の広い礼拝堂に数名だけ集まり、その日に歌う讃美歌を1節だけを歌い、詩編の連続講読、祈り、最後に主の祈りをささげて終わるスタイルに変更はない。始業前に、静かな心が休まる貴重なひと時であった。

冒頭に指摘したように時代の流れで、厳密な勤務時間という体制ができた。中高は各自の働きに応じた変則勤務時間である。従来の勤務開始は8時から8時10分となった。それまでは7時40分の祈祷会開始であったが開始を10分遅らせた。ただ朝の欠席連絡の確認、別室登校の受け入れ対応、学年の動き、学校の動きの対応、模擬試験の準備など、朝は過去に比べて格段に忙しくなった。4月の健康診断、模擬試験、定期試験中は無理をしてまで祈祷会を開催しないこととした。無理をして、各々が負担に感じると継続が難しい事態が起こるからである。しかも正式には勤務時間外で、手当などは発生しないし要求もしようとも思わないのは私だけかもしれない。

祈祷会参加者にキリスト教徒ではない教員がオルガンを弾き、祈祷会に参加してくれている。宗教部の副部長といえはそれだけだが、中にはオルガンを弾き終わったら退出する教員も実際にはいたのであって、それがむしろ普通なのかもしれない。それを思うと、本当に良き同僚に出会えたことに感謝は尽きない。

今後とも、まったく表には出ない、誰にも知られていない、アピールをするような事案でもない中高の早天祈祷会である。けれども目を閉じ、へりくだった思いで讃美歌を歌い、聖書を読み、祈り続けたいと思う。それによって確かに神によってたてられた学校として、深い次元で機能するのだと思う。学校の魂の呼吸として、一翼を担い続けたい。

2025年度

東北学院榴ヶ岡高等学校 宗教活動報告

2025年度 東北学院榴ヶ岡高等学校 宗教活動報告

東北学院榴ヶ岡高等学校 宗教主任 西間木 順

2025年4月より、榴ヶ岡高校は、大学泉キャンパス2号館に移転しました。礼拝は大学音楽堂をお借りして捧げております。パイプオルガンの音色と讃美歌をうたう声が音楽堂に響き渡りました。

礼拝前に音楽堂で出席をとり、その後礼拝を捧げるという大きな変更をしました。また音楽堂には空調が入っておりませんので、7月から9月は放送によって、各クラスの教室での礼拝となりました。それらのことを通して、教員一人ひとりが「礼拝について」考える機会となりました。

教職員対象のキリスト教教育研修会では、キリスト教学校教育同盟講師派遣制度を利用し、前西南学院中学校高等学校校長の中根広秋先生に『共に苦しみ、共に喜ぶーキリスト教学校の教師が担うもの』と題するご講演をいただきました。この研修は、教員一人ひとりが主体的にキリスト教教育を担っていくための学びを目的としています。教職員一人ひとりが、キリスト教教育を実践することによって、キリスト教の香りのする学校となると考えています。

祈祷会では、生徒から英語で聖書を読みたいとの要望を受け、マタイによる福音書の「山上の説教」を読みました。宗教センターのTGCF English Caféを実施することができ、参加した生徒からも「楽しかった。また参加したい」との感想がありました。

宗教センターや多くの方々のご協力と支えによって、2025年度の活動を行うことができました。感謝です。



校祖墓前礼拝
2025年5月15日(木)



伝道週間
2025年7月11日(金)～17日(木)



English Café @榴ヶ岡
2025年9月8日(月)



クリスマス礼拝
2025年12月24日(水)

1. 宗教部 構成メンバー（敬称略）

部 長 宗教主任 西間木順

1 学年 河田拓朗 2 学年 酒井広幸（副部長） 3 学年 細越康伸

2. 年間聖句 主題「共同体としての学校」

「主はわたしの光、わたしの救い」（詩編27編1節）

①礼拝する共同体 ②共に学ぶ共同体

目標 キリスト教主義に基づき人格を陶冶する。

①隣人への愛の実践と感謝の心を育む ②聴く・祈る・歌う学校へ

3. 礼拝 8時30分～8時45分（15分）

場 所：泉キャンパス音楽堂

参 加 者：全生徒、全教職員

テキスト：ルカによる福音書の連続講解

説 教 者：(学内) 西間木順宗教主任、後藤昌男教諭、最上巖教諭、稲垣実悟教諭、
佐藤由子先生（宗教センターチャプレン）

(牧師) 中本純牧師（日本基督教団仙台東六番丁教会）

加藤秀久牧師（日本基督教団仙台南伝道所）

長手陽介牧師（日本基督教団泉高森教会）

奏 楽：最上巖教諭、西間木順宗教主任

4. 早天祈祷会 毎週水曜日 8時00分～8時15分

宗教主任の司会で、讃美歌を歌い、英語で「山上の説教」を輪読し、参加者で主の祈りをささげる。

5. 授 業

各年次週1時間、必修科目として実施

年次・コース	使用テキスト／内容	担 当 者
1 年次全コース	『キリスト教とは何か』 『東北学院の歴史』	西間木順宗教主任
2 年次全コース	『旧約聖書を読もう』	西間木順宗教主任 加藤秀久牧師
3 年次全コース	『旧約聖書を読もう』 『新約聖書を読もう』	西間木順宗教主任 中本 純牧師 加藤秀久牧師

※非常勤講師による説教動画視聴レポートおよび教会レポート それぞれ年2回提出。

6. 特別礼拝・行事

始業式	4月8日(火)
第67回入学式	4月9日(水)
イースター礼拝	4月25日(金) 説教者 中本純牧師(日本基督教団仙台東六番丁教会) 説教題 『生まれ変わる力』
創立記念週間	5月7日(水)～14日(水)
創立記念式典	5月15日(木) 説教者 藤野雄大先生(東北学院大学文学部総合人文学科准教授) 説教題 『東北の塩、東北の光』
創立記念墓前礼拝	5月15日(木) 説教者 長手陽介伝道師(日本基督教団泉高森教会) 説教題 『雲の柱、火の柱』
ペンテコステ礼拝	5月30日(金) 説教者 加藤秀久牧師(日本基督教団仙台南伝道所) 説教題 『聖霊の力』
伝道週間(放送礼拝)	7月11日(金)～17日(木) 説教者 中林撰氏(日本国際ギデオン協会) 大久保直樹先生(宮城学院中学校高等学校宗教主事) 原田浩司先生(東北学院大学宗教部長) 大西晴樹先生(東北学院院長・東北学院大学学長) 松井浩樹先生(東北学院中学校・高等学校宗教主任)
閉講礼拝(放送礼拝)	7月18日(金)
キリスト教教育研修会	8月20日(水) 13時30分～15時30分 講師 中根広秋先生(前西南学院中学校・高等学校校長) 講演題 『共に苦しみ、共に喜ぶーキリスト教学校の教師が担うもの』
開講礼拝	8月25日(月)
前期終業式	9月29日(月)
後期始業式	10月1日(水)
宗教改革記念日礼拝	10月31日(金) 説教者 瀬谷寛牧師(日本基督教団仙台東一番丁教会) 説教題 『『全生涯の、日ごとの悔い改め』から』
クリスマスツリー点灯式	12月4日(木)
クリスマス週間	12月17日(水)～23日(火) 17日(水) 大西晴樹先生(東北学院院長・東北学院大学学長) 18日(木) 長尾厚志牧師(日本基督教団仙台ホサナ教会) 19日(金) 松井浩樹先生(東北学院中学校高等学校宗教主任) 22日(月) 成智圭先生(東北学院中学校高等学校聖書科) 23日(火) 原田浩司先生(東北学院大学宗教部長)

クリスマス礼拝	12月24日(水) 説教者 阿部頌栄牧師(東北学院宗教センター主事・日本ナザレン教団仙台富沢教会) 説教題 「神の御子はどこに來たのか」
開講礼拝	1月8日(木)
卒業礼拝	1月23日(金) 4校時目 対象3年次 説教者 中家契介牧師(日本キリスト教会仙台黒松教会) 説教題 「こんなところに神様が！」
第65回卒業式	3月2日(月)
3.11東日本大震災を覚えて	3月11日(水) 特別プログラム
終業式	3月24日(火)

7. キリスト教学校教育同盟第113回定時総会

日 時：6月13日(金)～14日(土)
会 場：北星学園大学
出席者：西間木順宗教主任

8. キリスト教学校教育同盟第10回全国災害支援連絡会議

日 時：8月7日(木)～8日(金)
場 所：北陸学院中学校高等学校、能登半島
参加者：西間木順宗教主任(実行委員)

9. キリスト教学校教育同盟 東北・北海道地区 新任教師研修会

日 時：9月1日(月)
会 場：東北学院中学校・高等学校
参加者：高橋凌太郎教諭、西間木順宗教主任

10. キリスト教学校教育同盟東北・北海道地区 教育研究集會中高部会

日 時：10月16日(木)～17日(金)
会 場：宮城学院中学校高等学校
参加者：引地颯太教諭、西間木順宗教主任

11. TGCF English Café

日 時：10月14日(火)、11月11日(火)、1月20日(火)

12. ボランティア

生徒会 エコキャップ回収
生徒有志 ありのまま舎帯封糊付け作業
音楽部 ライフケアセンター名取コンサート、コスモス向陽台コンサート

東北学院榴ヶ岡高等学校 教職員キリスト教教育研修会 レジメより

講 師 中根広秋先生（前西南学院中学校高等学校校長）

テ ー マ 『共に苦しみ、共に喜ぶ --- キリスト教学校の教師が担うもの』

主題聖句 「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。」（コリントの信徒への手紙12章26-27節）

○発題にあたりまして

このたび研修会においていただきましたテーマは、御校がキリスト教教育を推進していかれる上で、クリスチャンの先生の人数が減少傾向にある中で、ノンクリスチャンの先生方がキリスト教教育に携わる形はどのようにあればよいのか、どのような形であれば主体的にキリスト教教育を実践できるのか、つまりキリスト者の先生方と未信者である先生型とのキリスト教教育の協働はいかにあるべきかという趣旨のものでした。

このことを踏まえ、発題のタイトルを『共に苦しみ、共に喜ぶ --- キリスト教学校の教師が担うもの』とし、「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。」（コリントの信徒への手紙12章26-27節）という言葉为主题聖句として掲げさせていただきました。

このパウロの言葉は教会のあり方を比喻した言葉ですが、キリスト教学校という、キリスト教信仰に基づく「建学の精神」によって創立された学校という共同体における教職員のあり方を象徴する言葉であると思われるからです。この場合の教職員には申すまでもなくキリスト者と非キリスト者を含みます。「建学の精神」の担い手であることにおいては両者は同じ場所に立っているからです。

かつてキリスト教学校同盟の常任理事を務められた故平塚敬一氏は、「一人ひとり痛む教師であるが、その痛みを乗り越えるための共同作業に全力投球できる教育共同体がキリスト教学校にはあると信じたい。キリスト教教育の現場は、キャンパスに絶望しない教育共同体を構築できているかにかかっていると思っている。」（『凛として生きる』2024年）といわれました。平塚先生の言われる「キャンパスに絶望しない教育共同体」の構築にあたって、現場の先生方の取り組みに少しでも参考となるお話ができればと願っております。

○あなたはどこにいたのか --- キリスト教学校の教師が共に担うもの

・「今キリスト教学校が求めている教師とは」

「生き活きた教育現場が生まれるのは、キリスト者であろうがなかろうが、すべての教職員が同じ立場で協力しているからである。（中略）学校がキリスト教精神で立つ、そ

のことを大切にす教師が存在することでキリスト教学校は成り立っている。」

(平塚敬一『凛として生きる --- キリスト教教育に魅せられて』2024年 教文館)

○キリスト教学校にとって永遠とは何か

ある宣教師の言葉

「西南は学校として、事業体として、永遠なものではありません！我々は西南の伝統を崇拝してはなりません。創立者 C.K.ドージャー先生を神扱いにしてはなりません。西南が「永遠の学院」、永遠的な学院となるのは、50年前の歴史を繰り返すことによってではなく、今日、永遠的なものに生きることによってなのです。(中略) 永遠とは時間の無限の長さ、延長ではありません。質的なものです。永遠的なものから離れて、西南が年を千年も万年も重ねて存続しても「永遠の学院」ではありませんが、その存在がどんなに短くても永遠的なものに忠実であれば、名実ともに「永遠の学院」です。」

(W.M. ギャロット 1966年 西南学院創立50周年記念講演より)

2025年度

東北学院幼稚園 宗教活動報告

2025年度 東北学院幼稚園 宗教活動報告

東北学院幼稚園 園長 島内 久美子

進級児はもちろん、初めてキリスト教に触れる新入園児も、その柔らかな心で神さまをすぐに受けとめ、素直に祈る姿が見られ、宗教センターと連携した「異文化を知る活動」においては、隣人愛の精神を育むことにつながりました。

しかし、幼稚園の宗教活動を支える教員は、祈ること、礼拝の中で聖書のお話をするに不安を覚えています。そうした教員にとってキリスト教保育連盟主催の研修会参加や、東北学院大学宗教主任を講師に迎えた聖書を学ぶ園内研修は重要な学びの場となり、園児の前に立つ心の支えとなりました。祈祷会もまたその一つであり、簡易ではありますが礼拝を守ることでキリスト教を感じ、園児との礼拝の中で感じていること等を共有することで、教員が宗教活動への理解を深めるよい機会となりました。

今後も園児と教員が神さまに向かい、ともに朗らかに祈ることができるよう、活動を進めていきたいと思えます。



イースター
2025年4月18日(金)



土樋キャンパス訪問
2025年5月1日(木)



感謝祭礼拝
2025年11月14日(金)



クリスマス礼拝
2025年12月12日(金)

1. 年間主題

ともに

2. 年主題聖句

わたしはあなたと共にいる。〈イザヤ書 43章5節〉

3. 礼 拝

クラス礼拝 月曜日～木曜日（10時10分～10時20分）

合同礼拝 金曜日（10時20分～10時40分）

4. 特別礼拝

日 時	説教・祈祷者	内 容
4月9日（水）	千葉直子（教員）	2025年度始業礼拝
4月10日（木）	宗教センターチャプレン 佐藤由子先生	入園式
4月18日（金）	宗教センターチャプレン 佐藤由子先生	イースター礼拝
5月1日（木）	院長 大西晴樹先生	ラーハウザー記念東北学院礼拝堂礼拝
5月30日（金）	宗教センターチャプレン 佐藤由子先生	特別伝道礼拝
6月6日（金）	柏木真理子（教員）	花の日礼拝
6月27日（金）	宗教センターチャプレン 佐藤由子先生	特別伝道礼拝
7月11日（金）	宗教センターチャプレン 佐藤由子先生	特別伝道礼拝
7月18日（金）	森郷キャンプ場代表 松田献氏	サマーデイキャンプ
9月5日（金）	宗教センター主事 阿部頌栄先生	特別伝道礼拝
10月10日（金）	宗教センターチャプレン 佐藤由子先生	特別伝道礼拝
10月24日（金）	榴ヶ岡高等学校宗教主任 西間木順先生	特別伝道礼拝
11月14日（金）	島内久美子（園長）	感謝祭礼拝
11月28日（金）	島内久美子（園長）	アドベント礼拝
12月5日（金）	宗教センターチャプレン 佐藤由子先生	アドベント礼拝

日 時	説教・祈祷者	内 容
12月12日（金）	宗教センターチャプレン 佐藤由子先生	クリスマス礼拝
1月30日（金）	宗教センターチャプレン 佐藤由子先生	特別伝道礼拝
2月27日（金）	宗教センター主事 阿部頌栄先生	特別伝道礼拝
3月11日（水）	島内久美子（園長）	東日本大震災追悼礼拝
3月13日（金）	宗教センター主事 阿部頌栄先生	卒園式
3月19日（木）	海老名直子（教頭）	2025年度修了礼拝

5. 園児対象

- (1) 毎月の聖句暗唱
- (2) 聖書物語絵本・紙芝居
- (3) 聖句入り絵カード帳での学び
- (4) クリスマス礼拝での聖誕劇

6. 教師対象

- (1) 月刊誌『キリスト教保育』輪読
- (2) 祈祷会
 - 〔第1回〕 日時：7月8日（火）15時15分～16時15分
場所：幼稚園
 - 〔第2回〕 日時：1月14日（水）15時20分～16時20分
場所：幼稚園
- (3) 聖書の学び
 - 日時：1月7日（水）13時00分～15時
 - 場所：幼稚園
 - 講師：吉田新先生（大学総合人文学科長）

7. 保護者対象

- (1) クリスマス準備会
 - 日時：11月17日（月）10時00分
 - 場所：幼稚園ホール
 - 講師：佐藤由子宗教センターチャプレン
 - 内容：「クリスマスを知る」
- (2) アドベント礼拝出席

8. 研修会（キリスト教保育連盟）

《東北部会：総会及び園長・設置者研修会》

日時：6月6日（金） 11時00分～16時00分

場所：山形テルサ

総会：11時～12時

研修：13時～16時

講師：磯部裕子氏（宮城学院女子大学 名誉教授）

内容：「学び合い高め合う 共主体としての保育者～実践を問い、学びを拓く～」

《東北部会：第2回研修会》

日時：8月30日（土）13時00分～16時00分

場所：利府聖光こども園

講師：大漣知子氏（東洋英和女学院附属かえで幼稚園 園長）

内容：「聖書のお話を子どもたちへ」

《東北部会：第3回研修会》

日時：10月17日（金）

場所：日本基督教団福島教会

講師：深井智朗氏（日本基督教団愛泉教会）

内容：「キリスト教保育の深さと豊かさ」

日常における宗教活動

東北学院幼稚園 園長 島内 久美子

幼稚園は神さまに向かうよう導く活動が宗教活動であり、宗教教育であると考えた時に、幼稚園では礼拝だけではなく、日常の何気ない場面やそれぞれが心動かした時に神さまに向かっていると感ずることが多くあります。それは、園庭に咲いた花を見て「神さま、きれいに咲かせてくれたね」と無意識のうちに創造主を知り、降る雨を見ながら「神さまが雨を降らせてくれたから、畑のキュウリ大きくなるよね」と外に行けないことを残念に思いながらも、恵みと捉えようとする姿に現れているように思います。

ドイツの教育学者で「幼児教育の父」として知られるフレーベルが創設したキンダーガルテン（子どもの庭）の教育理念はキリスト教より発芽しており、自然との交わりは神による教育であり、その中で人間教育も神によってもたらされるものであると示されています。それは神の創造物には精霊が宿るという考えに基づくものであり、フレーベルの創設したキンダーガルテンでは、外遊びにおける自然との関わりは極めて重要な位置を占めていました。当時の教育は着座し大人の指示に従うことが主流であったことから、非常に革命的でありましたが、その理念はその後に続くキリスト教保育を行う多くの園に受け継がれていきました。

本園も例外ではなく、創設当時の周辺の園は幼稚園であっても教科教育的な活動を行う園が多かった中で、園庭での遊びによる育ちを重視した本園は特異でありました。また、小学校の校庭のミニチュア版といった造りの園庭が殆どだったのに対し、地形の丘陵を活かし、自然との共生を巧妙に取り入れた園庭の造りを見ましても、教育内容や施設にキリスト教を根底に置くフレーベルの教育理念が取り入れられているように思います。

これからも、「神によって育てられていくのです。（コロサイの信徒への手紙2章19節）」との聖書のみ言葉どおり、日常の中に神さまがいてくださり、そこに集うものに祈りがある園でありたいと思います。

学校法人東北学院
「宗教活動報告書」

第7号（2025年度）

発行日 2026年6月24日

発行責任者 宗教センター長 大西 晴樹

編集責任者 宗教センター主任 原田 浩司

出版社 株式会社佐々木印刷所

問い合わせ先 東北学院宗教センター

〒984-8588 仙台市若林区清水小路3-1

電話 022-354-8310

